

発刊のことば

熊本県農業研究センター所長 大田黒慎一

熊本県農事試験場が、明治44年に飽託郡出水村（現熊本市菅原町）に産声をあげて以来、本年をもってちょうど満100歳を迎えることになりました。

この一世紀、我が国は西欧文明に学んだ近代化や大正デモクラシー、二度の世界大戦や高度経済成長、バブル崩壊、大震災等の文化面、経済面における惨禍や自然災害、エネルギー危機等を乗り越え、様々な経験を経てきました。

本県農業試験研究機関も、原蚕種製造所や種畜育成所の設置、茶業部や園芸、柑橘及び藺草試験地の設置、さらには県下各地への試験地や分場、支場、指導所等の設置を経て、平成元年からはすべての試験研究機関を農業研究センターとして一元化し、本部を合志市に置いて体系的・効率的な試験研究を推進してきました。

その間、優良品種の育成選抜や新しい技術の研究・開発の拠点として、関係指導機関や地域の生産者と密接に連携し、本県農業の技術革新に重要な役割を果たして参りました。

これまで残された数々の研究成果はそれぞれすばらしいものがあり枚挙に暇がありませんが、その積み重ねは農業の姿を変える程の重さを持つものだと感じており、あらためて諸先輩はじめ関係者の努力に敬意を表するものであります。

今後とも本県農業の持続的な発展のため、くまもとの顔となる品種・種畜の育成や生産性向上・低コスト化等の基礎となる生産技術の開発に力を注ぐとともに、生産現場が抱える課題を迅速に解決し、消費・流通のニーズに対応した農畜産品づくりが展開されるよう努めて参ります。

今回、一世紀の節目を迎えるにあたり、初心に立ち返って試験研究機関としてその使命を達成するよう、職員一同決意を新たにしているところであり、関係者の皆様の一層の御指導、御鞭撻をお願いいたします。

なお、本資料は農業試験研究機関設立100年目にあたり、これまで多くの変遷を経てきた各分野の試験研究機関の歴史を一つにまとめたものです。

編集、執筆にあたった職員の皆様に心から感謝するとともに、本誌が、広く関係者に利用され本県農業の飛躍的発展の一助となれば幸いです。

平成23年11月